

くすりと健康のはなし

第34回

薬包紙



一般社団法人岐阜県薬剤師会
 監事 西脇了

昨年、晩秋の頃奈良の薬師寺に足を運びました。久々見る五重塔や薬師如来は修学旅行以来の見学です。当然最初に目についたのは学生服を着た集団でした。懐かしく思いながら金堂内の薬師如来、日光菩薩、月光菩薩を伴う薬師三尊を拝観していたら隣から薬師寺を説明する声が聞こえてきました。

この法相宗大本山薬師寺は680年天武天皇が鸕野讃良皇后(後の持統天皇)の病氣平癒を祈願して建立を發願しました。しかし、686年天武天皇は寺の完成を待たずしてお亡くなり、伽藍は持統天皇さらに文武天皇に引き継がれ698年完成しました。当時は橿原市城殿町にありましたが、平城京遷都の時に飛鳥から現在のこの地に移転しました。阿弥陀さまは西のかなたに「西方浄土」―死後の世界―をつくり阿弥陀如来となり、お薬師さまは東のかなたに「東方浄土」―現世の世界―をつくり薬師如

お薬師さまとくすり

来になり、薬師如来のまたの名を医王如来とも言つて医と薬の仏さまです。

薬師如来と言えば左手に薬壺を持ち、この薬壺には体・心・社会などあらゆる病を治す霊薬が入っている壺と聞いていましたが、この薬師寺の薬師如来さまは何も持つていませんでした。聞いてみると般には左手に薬壺を持つのが普通ですが、奈良の薬師寺金堂像・唐招提寺金堂像の古代の像では薬壺を持たないものも多く、これは不空三尊による經典傳來以降に、薬壺を持つ像が多く造られるようになったと考えられているようです。

どちらにしてもお薬師さまは現世のあらゆる病を取り除く力を持つていると言えましょう。是非、現代社会の不安や悩みを取り除くための効果をお願いしたいものです。

743年には光明皇后が聖武天皇の健康回復を祈つて新薬師寺を建立しました。